

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	寒河江市			代表者名	市長 齋藤 真朗
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	デジタル戦略課	連絡先電話番号	0237-85-1917
担当者役職	課長補佐	担当者氏名	永山 祐一郎	連絡先E-mail	
住所	991-8601 山形県寒河江市中央一丁目9番45号				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署			
担当者氏名		連絡先電話番号		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	職員のDX機運醸成による人材確保・育成事業
概要	職員全体のDXに対する機運醸成を高めながら、全庁的にDXを活用した効率的な業務改善を意識できる雰囲気となるようデジタル化を推進し活用ができる職員の発掘と育成を行いたい。この機運醸成及び発掘・育成のための有効な支援をお願いしたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	652	令和7年10月7日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月2日	支援・助言(実地)	9時00分	17時00分	70
				活動時間（分）	410
2-2. 派遣場所	会場名	寒河江市役所1階議会会議室		最寄駅	山形空港
	所在地	山形県寒河江市中央1-9-45		最寄駅からの交通手段	レンタカー

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	森戸 裕一
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	全職員を対象としたDX推進研修を計3回実施しました。この研修を通じて、職員はDXとITの違いを明確に認識できました。また、急速に進む高齢化や人口減少により業務が多様化する中で、市民サービス向上と業務改善を両立させるためには、職員の業務を再整理し、DX推進が最重要かつ喫緊の課題であるという意識を強く持つことができました。講師には、実際に本市を訪問していただき、職員や街の雰囲気を読まえた鋭く率直なご意見をいただきました。特に、窓口体制、職員体制、街づくりなどについて示唆に富むお話があり、職員にとって多くの「気づき」を得る機会となりました。この研修の結果、職員のDXに対する意識が、少しずつ変わっていくことを期待します。
アドバイザーへの要望事項	次回の課長補佐以上役職向け研修も引き続きよろしくお願いします。研修受講のみで終わることなく、実際にDXへ踏み込めるよう後押しをお願いします。

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	70人	
	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
人数	70	0	0	0

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	・職員全体においてDXに対する機運が高まっていない。 ・これまでの業務のやり方を踏襲し続け、効率的な新たな方法を見いだせない。 ・現状の業務が多忙なため、新しいことに取組む余裕がない。 ・担当課自ら政策立案を行おうとする意識が不足している。 ・DXを実践に移すための体制が確立されていない。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	本事業の研修により、職員全体のDXへの機運醸成を高める。この研修を通して職員のDXに対する意識を変え、全庁的にデジタル化を推進し活用できる職員を発掘する。業務改善やデジタル戦略課に頼らない力を身に付けるなど職員のレベルアップを目指す。庁内の内部的な業務改善だけでなく、各業務のオンライン化等による住民サービスの向上と利便性の拡大により、住民一人ひとりの生活の質を高め、より快適で安心な地域社会の実現を目指す。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	「DX推進による自治体業務の効率化と住民サービスの向上」をテーマに支援を受けました。 ・DXの本質とIT化との違い ・DXが求められる背景とDXの必要性 ・自治体DXの始め方・進め方 適宜、グループワークを取り入れたり、寒河江の実情に合わせた内容でわかりやすい支援を受けました。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	DXに対する正しい認識とこれからの必要性についての意識が大きく醸成されました。職員一人ひとりが、本来注力すべき業務について具体的な気づきを得ることができました。特に重要な点として、正規採用職員は慣例的な定型業務を会計年度任用職員やデジタルツールの活用に委ねるべきであるという認識を共有しました。これにより、職員は本来の使命である「市民が真に幸せになるための政策立案」に注力することが可能になり、これらの政策立案や業務効率化において、生成AIの活用が非常に有効であることを学びました。今回の研修は、職員のDXに対する意識を確実に変革させる重要な一歩になったと感じています。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない 次回の課長補佐以上役職向け研修を実施しますので、具体的な成果物はありませんが、職員の全体的な意識醸成により、実際にDXによる業務改善や市民サービスの向上に繋がることを期待します。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	今回の研修により、DXに対する正しい認識や必要性について、意識醸成が図られ始めていると手応えを感じています。しかし、この変化を一過性のものにせず、職員の意識に深く浸透させ、具体的な行動変革へと結びつけるためには、継続的な検討と施策が必要です。今後は、DXを「自分ごと」として捉え、業務改善や政策立案を実践できる体制を市全体として、引き続き検討していかなければならないと感じています。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(E X C E LやP D Fでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 アンケート結果は別添のとおり。参加者の約96%が業務への参考になると感じ、98%が関心を持つなど、非常に高い評価を得ています。特に、一般職員(主事、主任級)が参加者の大部分を占めており、研修が職員のDXへの意識向上に影響を与えたと感じています。一方で、DX推進における最大の障壁として「既存業務の慣習」(61%)が挙げられており、意識・知識の向上だけでなく、実際の業務改革が今後の課題であることが明確になりました。また、「人材不足」も約3割が障壁と感じており、DXを担う人材の確保・育成が重要であることも示されました。	
4－3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい	⑤その他 10月21日に課長補佐級以上向け研修1回を実施する。次年度以降も継続してDXに対する意識醸成と実現を図っていく。
4－4. 事業の最終的な目指す姿	DXに対する職員一人ひとりの意識改革と実践により、今後の業務効率化と住民サービス向上を実現していく。	

5.報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他＞を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

